

単発、短時間、短期間で働くスポットワークの求人倍率は 2.18 倍
スポットワーカーの平均時給は 1,158 円、通常のバイト時給より 32 円高い
-スポットワークマーケットデータレポート（2022年7月度版）-

多様な働き方の調査研究機関「ツナグ働き方研究所 (<https://tsuna-ken.com/> 拠点：東京都千代田区/所長：平賀充記)」は、ここ数年で広がりを見せる「単発、短時間、短期間で働くスポットワーカーの市場」について、定点観測する「スポットワークマーケットデータレポート」を毎月発表していきます。本レポートでは、2022年7月度最新データについて、とりまとめましたのでご報告いたします。

トピックス

1. 単発、短時間、短期間で働くスポットワークの2022年7月度求人倍率は 2.18 倍
2. 新規ワーク数は、対前年比で+83.1%。主要職種ではコンビニスタッフが+103.5%と伸長
3. スポットワーカーの平均時給は 1,158 円。通常のアルバイト平均時給より 32 円高い

■ 1. 単発、短時間、短期間で働くスポットワークの2022年7月度求人倍率は 2.18 倍

2022年7月度のスポットワーク求人倍率は 2.18 倍（前月比+0.61ポイント、前年比+0.40ポイント）。2021年12月以来、7か月ぶりに2倍を超えました。7月の求人数はお中元等の影響もあり、前月より+50%の32,018件と大幅に伸長しています。

スポットワーク求人倍率の推移



■ 2. 新規ワーク数は、対前年比で+83.1%。主要職種ではコンビニスタッフが+103.5%と伸長

景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は 86,105 件。対前月で+48.3%、対前年で+83.1%となっています。主要職種の伸び率は3業種全て大幅に上昇していますが、特にコンビニスタッフが 38,400 件と最も多く、伸び率も昨年 29,702 件から（対前年+103.5%）大きな伸びを見せています。

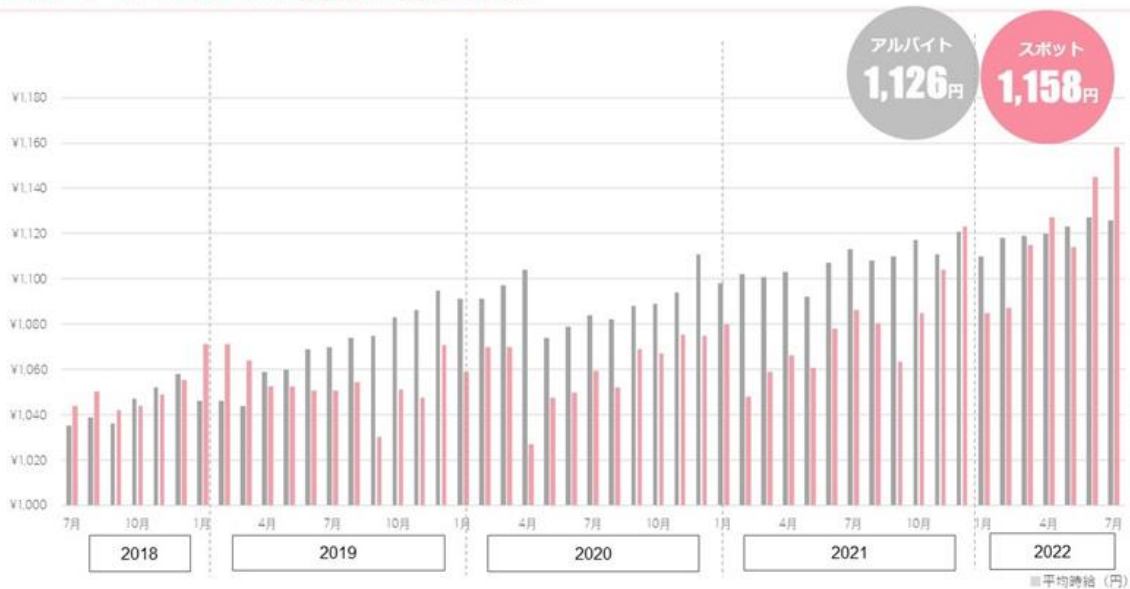
職種別新規ワーク数伸び率推移



■ 3. スポットワーカーの平均時給は 1,158 円。通常のアルバイト平均時給より 32 円高い

2022年7月度のスポットワーク平均時給（首都圏・関西圏・東海圏の3大都市圏）は、1,158円。前月から+13円、前年から+72円と上昇しました。通常のアルバイト平均時給1,126円（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）との比較では32円高く、2018年1月の調査開始以来初めてスポット時給がアルバイト時給を30円以上上回りました。主要職種で比較すると、倉庫内・軽作業ではスポット1,235円、アルバイト1,140円と、スポットワークの時給が高い傾向（比較差+96円）が続いています。

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年7月～2022年7月データ
 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)2022年(令和4年)4～6月期平均」
 リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」

■ スポットワークマーケットデータレポートとは

・ スポットワークマーケットの定義

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働き「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます（ギグワークの代表例として、ウーバーイーツ配達員が挙げられます）。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

・マーケットの現状

個人)働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少で、追加就労意欲が増大企業)生産性向上観点から、ムダやムラのない=必要な時に必要な人数を配置する人件費最適化の高まり

技術)タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者の参入

スポットワーカーは、コロナ禍を契機に急増、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

・定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加してスポットで働くことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的に捉えると、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした社会的意義と接続する観点から、本マーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化するデータレポートを発信していきます。

■ツナグ働き方研究所とは...

株式会社ツナググループ・ホールディングスを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関。所長である平賀充記(ひらがあつのり)は、リクルートにて、FromA、タウンワーク、とらばーゆ、ガテン、はたらいくなど、主要求人メディア編集長を歴任、メディアプロデュース統括部門執行役員を経て、人と組織の研究者に転身。特に30年以上にわたり観察を続けてきた「職場の若者」について造詣が深い。昨今では、組織コミュニケーション研究の観点から「ポストコロナ時代のリモートワーク」について精力的な研究に従事。近著に「パート・アルバイトの応募が殺到！神採用メソッド」(かんき出版)「なぜ最近の若者は突然辞めるのか」(アスコム)。最新刊「イライラ・モヤモヤする今どきの若手社員のトリセツ」(PHPビジネス新書)を上梓。

■過去の調査、リリース(一部)は以下に公開しております。

【コロナ影響を紐解く調査③】全国の時給で働く人1000人調査
コロナで仕事が減った人は5割に！4月からさらに影響が甚大に！

https://tsuna-ken.com/research_report/20200525_1955/

【コロナ影響を紐解く調査④】コロナ起因の求職意識調査
いま求職している人のうち7割が就業中！サクッと稼げる副業ニーズ高まる！

https://tsuna-ken.com/report/20200608_1955.html

【ウイズコロナの多様な仕事観調査①】若年正社員に聞いた収入面から考える就業意識調査
コロナで年収が減った若手社員の8割、女性では9割が収入増を目指す！

https://tsuna-ken.com/research_report/income_corona/

【ウイズコロナの多様な仕事観調査③】フードデリバリー就業意識調査 Vol.2
働く時間は月50時間まで！収入は5万円まででOK！フードデリバリーの仕事は、空いた時間を活かして稼ぎたい志向が鮮明に！

https://tsuna-ken.com/report/20200828_1984.html

【本件に関するお問い合わせ先】

ツナグ働き方研究所(株式会社ツナググループ・ホールディングス)

担当:和田(わだ) tsuna-ken@tsunagu.co.jp

■会社概要

社名:株式会社ツナググループ・ホールディングス

住所:〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-2-1 X-PRESS 有楽町3階

代表者:代表取締役社長 米田 光宏

資本金:696,651千円

従業員数:641名/グループ合計(2021年10月1日現在)

URL:<https://tghd.co.jp>

【取材・報道関連に関するお問合せ先】

株式会社ツナググループ・ホールディングス

広報担当：中田（なかた） Mail：tghd-info@tsunagu-grp.jp

※新型コロナウイルス感染症予防措置のためのテレワーク対応を実施しておりますので、一次受付はメールでの対応とさせていただきます。